

成果指標の課題と今後の継続的改善

本業績計画書は、初めての取組みであるが故の限界や算出に対する費用、さらには景気・財政・年金等大きく変化する先の読めない不透明な時代などの側面から、以下の事項について依然として作業制約があると考えています。これらの事項については、効果・効率を旨とする成果主義に基づいた道路行政マネジメントを目指し、今後とも課題の解決に向け必要な取組みを続けていきます。

データ収集上の限界と制約

石川県の道路事業の成果をすべて評価するためには、国や県、市町村等の管理主体の区別なくすべての道路の正確なデータ収集が必要となります。しかし、山間部等の交通量の少ない道路も含む県内の約1万3千キロにも及ぶ全ての道路について、同じ品質のデータを集めるためには、費用対効果の面から非効率であり、極めて困難であります。

このため、本書に示された指標は、一部を除き、国や県が所管する道路（高速道路を含む）に限定されています。なお、対象とする道路については、各指標においてその旨を明示することとします。今後、幹線市町村道等のデータについても効率的な収集体制を確立し、体系的なデータの整備を目指します。

成果指標の継続的な検討と追加

道路整備の効果は、最終的には、道路利用者である県民の実感により計られるものであり、これに基づいた道路事業の選択と集中を行い、その成果を表す指標を「評価・点検」の指標とする必要があります。

しかし、今回は、データ収集上の制約もあり、県民の実感を間接的に推し量る指標をもとに取組みを始めたところであり、今後は、経年的な利用者満足度調査（CS調査）が行える体制づくりを確立し、より一層、県民ニーズが道路事業に反映できる成果指標を検討し、順次、追加を行っていきたいと考えています。

中長期の目標値の限界

道路事業の中には、10年にも及ぶ年月をかけて行われるものもあることから、社会情勢が急速に変化している中、財政的な見通しも不透明であり、全ての指標において、中長期的な目標値を明示することには限界があります。

このため、本計画書は平成15年度末の目標のみを明示するものとし、今後は、比較的見通せるものに限定して、中長期的な目標を目安として示すことを目指していきたいと考えています。